

# 「田園回帰」に関する調査研究中間報告（概要）（案）

資料2-1

## 過疎地域への移住者の状況

- 平成12年国勢調査では、約107万人（全国移住者約1,622万人のうちの6.6%）
- 平成22年国勢調査では、約84万人（全国移住者約1,306万人のうちの6.5%）

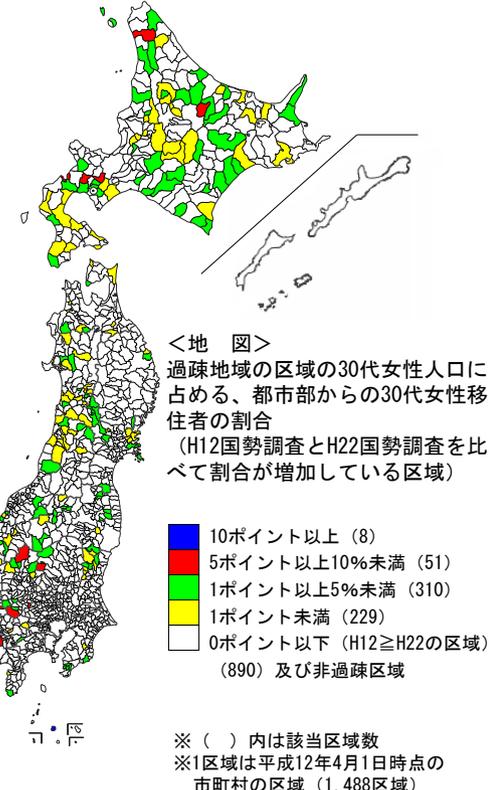
## 都市部から過疎地域への移住者の状況

- 移住者の年代別内訳は、平成12年、平成22年ともに、20代の割合が最も高い。
- 平成22年国勢調査では、20代の割合と30代の割合の差が縮小。
- 過疎地域への移住の志向が30代にも拡大。
- 転入元が他の都道府県の都市部からの移住者が約7割
- 転入元が他の地域ブロックの都市部からの移住者は約5割。

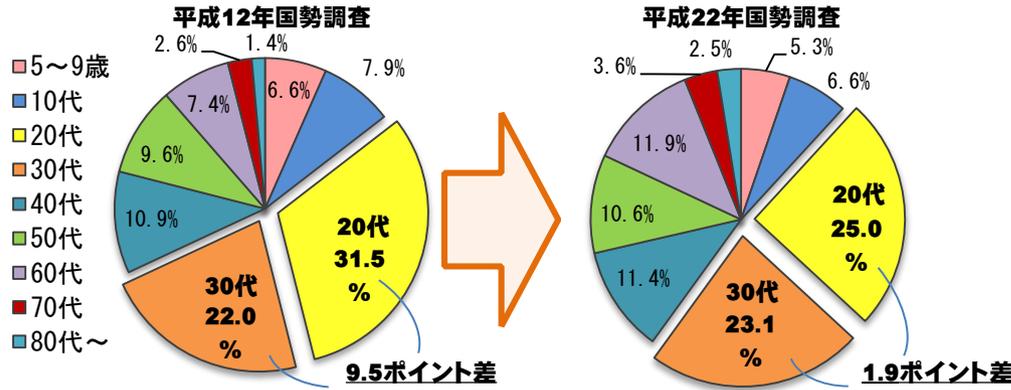
## 地図でみる都市部から過疎地域への移住の状況

- 平成12年、平成22年ともに、全国の過疎地域の全ての区域で都市部からの転入者がある。
- 過疎地域の区域の40.2%（598区域）で、30代女性人口に占める都市部からの30代女性移住者の割合が拡大。

平成12年国勢調査と平成22年国勢調査を比較し、当該区域の人口に対する都市部からの移住者の割合が拡大した区域数249区域（16.7%）  
 20代男性：390区域（26.2%）  
 20代女性：393区域（26.4%）  
 30代男性：369区域（24.8%）  
 30代女性：598区域（40.2%）

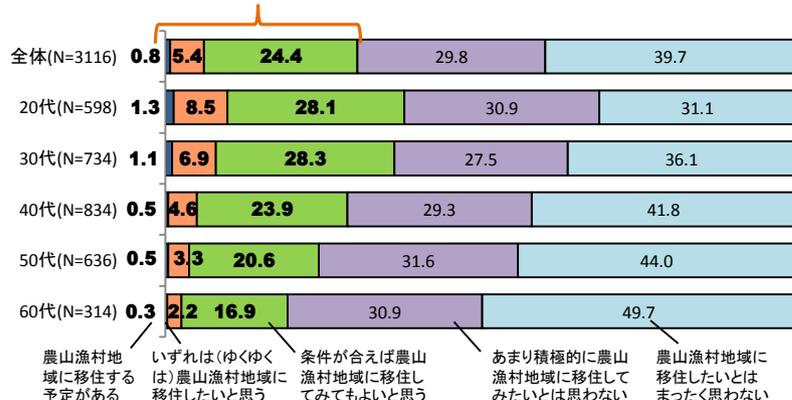


## 【都市部から過疎地域への移住者の年代別内訳】



## 都市部の住民の意識調査

- 農山漁村地域に移住してみたいと回答した割合は、全体では30.6%、20代で37.9%、30代で36.3%であり、若い世代ほど移住の意向が強い。



## 【移住したい理由】

- ・「気候や自然環境に恵まれたところで暮らしたいから」(46.7%)
- ・「環境にやさしい暮らし(ロハス)やゆっくりとした暮らし(スローライフ)、自給自足の生活を送りたいから」(28.3%)

過疎地域の「暮らしの場」としての価値が再認識されている。

## 現地ヒアリング：移住の動機

(秋田県五城目町、岡山県真庭市、大分県豊後高田市)

- ・それまでとは異なる働き方、暮らし方
- ・家族との時間や地域との関わりを大切に生活
- ・都市部にはない子育て環境
- ・豊かな自然環境や人々の温かさ